

# 2014年12月度 中部品質工学研究会 議事録

1. 開催日時  
2014年12月13日(土) 10:00~16:00

2. 開催場所  
ITEQ本社

3. 参加者<50音順、敬称略>出:出席、欠:欠席、書:書記、休:休会

井上	出	伊藤	出	梅本	休	大見	出	奥田	休	杉浦	出	則尾	出	林(p)	休
林(三)	出	牧野	出	山口	出	横尾	出	和田	出	伊藤	出	池田	休	森	休

4. プランジャ型ソレノイド機能について(その4)

1)合せ込みSN比

これまで入力電流値が1水準の解析方法を検討してきたが、今回は入力電流値を3水準にした場合のSN比の算出方法について検討した。結果、変動の分解が上手くできておらず再検討要。ロバストネスのSNの解析法も含めて次回再検討する。

2)許容差設計

部品寸法に対する許容差設計を検討中である。出力(推力)の平均を特性値にすることについて議論があった。

5. 事例相談

ある機能性製品開発において、トレードオフとなる2種類の特性をL18直交表で一度に解析できないか相談した。  
⇒元々異なる2種類の特性を同時に解析することは妥当でないので、別々に解析して適正条件を選定するしかない。

6. 品質管理体制、品質管理組織

以下などにつき、具体的な議論ができた。

- ・QMS関連規定類・手順書は事業所全体でコントロールすべきかどうか。
- ・製品・部品等各部門の品質管理部門の所属はどこがふさわしいか。

7. 新製品開発の進め方(QFDによる進め方)

- ・開発製品の対象が消臭材では広すぎるため、トイレ用消臭剤に限定し要求品質も該当するものに減縮した。
- ・要求品質重要度を1~3で点数付けした。
- ・自社既存製品と他社製品を選定し、特定の他社製品を3とした際の点数付けを次回検討することとした。

8. 次回案内

- ・日時:2015年1月10日(土)
- ・場所:中部品質管理協会
- ・検討テーマ(案)

- ①新製品開発の進め方(QFDによる進め方)
- ②新規事業について(QFDに基づく新規事業発掘)
- ③SN比はなぜ対数をとるのか
- ④アンケート結果の解析方法
- ⑤輪講:ロバスト設計のための機能性評価

- ・新年会を実施。

以上